An NIQ Company

Press Release
2023/8/24

電気自動車の意向率が最も高いのはZ世代
ハイブリッド車等も含む代替パワートレイン車意向率はベビーブーマー世代で最も高い

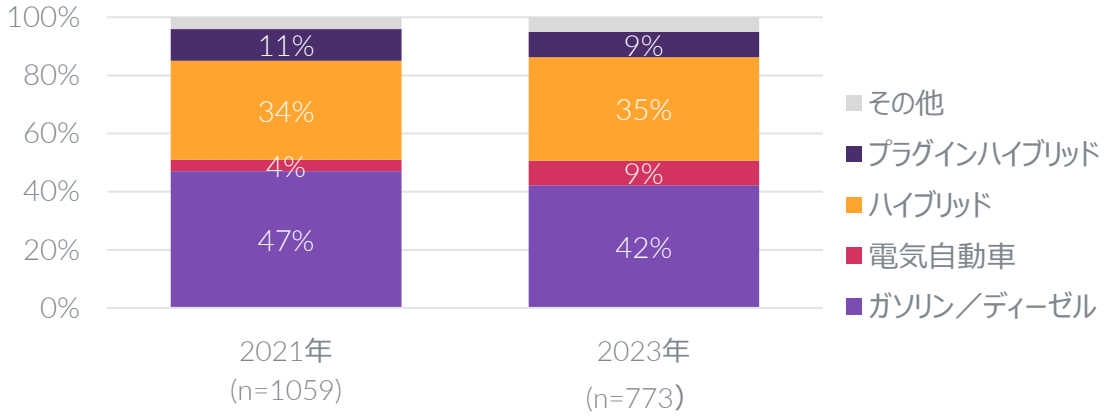
GfK Japan (東京：中野区)のMCI(Marketing & Consumer Intelligence)は、今後の新車購入意向者における電気自動車購入意向に対する調査結果を発表した。

【概要】

- 電気自動車意向率は2021年の4%であったのに対し、2023年では9%まで上昇した。
- 世代別にみると、電気自動車意向率はZ世代（24歳以下）で最も高かった。
- ハイブリット車なども含む代替パワートレイン車の意向率は、ベビーブーマー世代（57歳以上）で最も高かった。
- 電気自動車は比較的高級車を求める層で高い傾向が見られた。

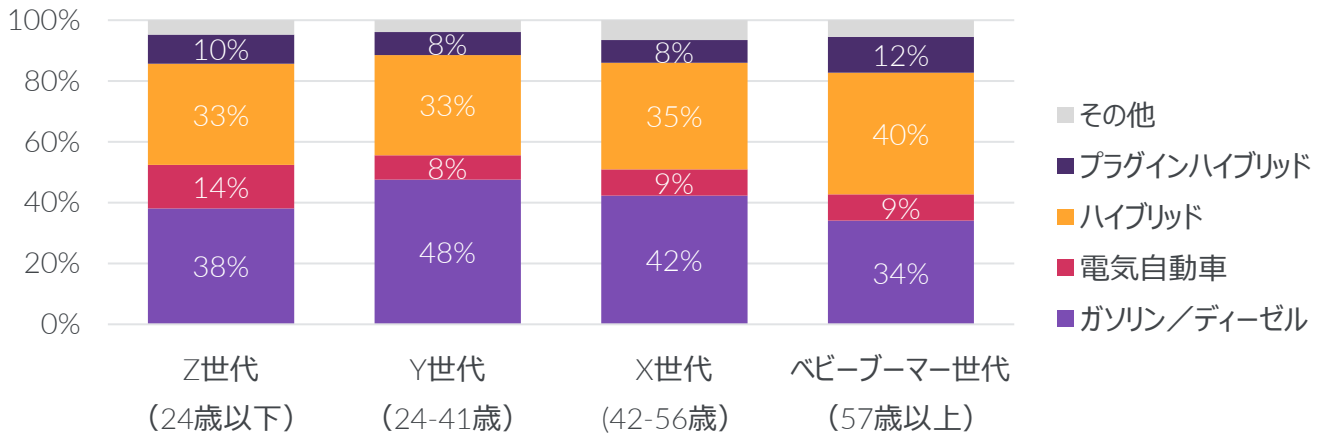
今後４年以内の新車購入意向者を対象に行った調査（2023年4月実施）にて、次に購入する車のエンジンタイプの第１候補として「電気自動車」を検討すると回答した人は9%で、2021年に行った同調査の4%から上昇した。

次に購入する車のエンジンタイプの第一候補はどれですか？（2021年 vs 2023年）



世代別に見ると、Z世代と呼ばれる24歳以下において電気自動車を検討する人は14%で上の世代よりも高い傾向が見られた。しかし、電気自動車だけでなく、ハイブリッド、プラグインハイブリッドも含む代替パワートレイン車全体の意向率は、57歳以上のベビーブーマー世代の61%と最も高い結果であった。

次に購入する車のエンジンタイプの第一候補はどれですか？（世代別）



© GfK 2023

意向する車のタイプ別でみると、電気自動車を意向する人の割合は、プレミアムセダンの意向者において最も高く、プレミアムハッチバック意向者が続き、高級車を求める人において電気自動車に対する意向が高いことが分かった。一方、オフロード／SUV／クロスオーバータイプの購入意向者は比較的電気自動車の意向率が低めであった。

今後購入したい車のタイプ	n数	電気自動車意向率
プレミアムセダン	76	20%
プレミアムハッチバック	19	11%
ミニカー／コンパクトカー	158	9%
オフロード／SUV／クロスオーバープレミアム	56	9%
ハッチバック	150	7%
セダン	106	7%
オフロード／SUV／クロスオーバー	185	6%

※.「GfKオートシンジケート調査」概要
■調査手法：オンライン調査　　■調査対象国：日本、中国、インド
■調査サンプル：800（日本）、各900（中国・インド）
■調査対象者：
20歳以上の免許保有者、12-24か月以内の新車購入意向者(中国・インド）、4年以内の新車購入意向者（日本）

本リリースに関するお問い合わせ先

GfK – an NIQ company | Japan
Marketing & Communications
平川　己津子
Email:mitsuko.hirakawa@gfk.com